

第19期第3回常任理事会議事録

日時：昭和52年1月26日 14.00～17.00

場所：気象庁予報部会議室

出席者：岸保，小平，朝倉，奥田，河村，杉本，立平，
松本，股野，各常任理事

報告

〔庶務〕 地物研連学会連合学術会議委員書面審査の結果

投票数	23票
全員可とするもの	21票
一部保留又は否とするもの	2票

〔会計〕

1. 11, 12月分の収支報告，会費の納入は順調である。
2. “教育と普及”のために“天気”に毎月解説として10P増やしたいとの申し出があったが，年間約200万円位の持出しとなる。これは会費の1割に当たる。

3. 本年の秋季大会は，札幌において行なわれるが，協賛団体が少ないところから交付金を増額して欲しい旨の要望があった。

〔天気〕 投稿規定を一部訂正することになった。すなわち，論文および図表を各2部（1部はコピーで可）送付して貰うことにした。

〔講演企画〕 例年の通り夏季大学講座をテーマ“気象教育”としてきたる7月26日（火）～7月29日（金）に気象庁で実施する計画である。内容については特別講演，天気図の実習，観測と資料整理等々である。

受講料は，昨年より10%アップを考えている。

議題

1. 機関誌（研究ノートを除く）残部の処置について
事務局から“天気”“気象集誌”の各巻毎の残部について報告があった。これによるとかなり残部があるもの，そうでないものがあるが，処分方法については庶務で検討する。

2. 外国人入会案内について

小平理事から原案が示されたが，字句，内容について多少修正することを了承。

3. 評議員と理事との懇談会について

昨年通り春の大会の際に全国理事会終了後，行なうことを了承。

4. 外国人会員の気象集誌への投稿について

股野理事から，さきに討議された問題ではあるが，日本気象学会細則第21条に「会員以外のものでも，編集委員会の承認を得た場合は，機関誌に論文を掲載することができる。この場合原則として印刷の実費を支払わねばならない。」とあるので，さきの常任理事会の決定と矛盾するように思われるとの提案があった。これに対し，会員になって貰った方が安いので，なるべく会員になって貰うようにする。そうでない場合の投稿は実費を貰う。これらのことは，編集委員会の決定に任せることを了承。

なお，招待論文は無料でさしつかえない。

5. 札幌大会費の増額について

札幌支部からの要望で大会費を増額して欲しいとのことで討議した結果，10万円は増額することを確認。あとの10万円は，懇親会費の1,000円を1,500円にするとか，参加費の引き上げ等によって賄って貰うことを会計理事から連絡する。増額については予算案に計上することを了承。

6. “天気”原稿料の増額について

現在1P880円であるが，これを1,200円位に増額して欲しいとの提案に対し，予算の編成の際に検討する。

7. 1978年秋の Tropical Meteorology のシンポジウムについて

WMOの主催によって行なわれる計画があるが，WMOから正式に申し入れがあった場合は協力したい。米国の気象学会も協力することになる。

第2，第5地区の衛星のトレーニングセンターセミナーも行なわれる計画である。

実施に当たっては，実行委員会を設けてやりたいが，最終的には全国理事会にかけるようになる。

承認事項：天久健二ほか29名の新入会員を承認。